



72 出会いと縁を紡ぐ場所を提供
殿城 弘子さん

殿城さんは、様々な人々が集い、その縁を深められるよう、水口町の住宅街の一角にある自宅をオープンスペースとして改装し、コンサートや料理教室などを開催しておられます。色んな人が出会い、笑顔を残すステキな空間「ミモザの広場」を訪ねました。

●「ミモザの広場」とはどんな場所ですか？
訪れていた人に、ほんの少しいつもと違う空間の中で心地の良い時間を過ごしてもらいたいと願い作った場所です。様々なイベントを通して、初めて出会う人たちが楽しい時間を共有することで心がつながりあい、笑顔あふれる空間になってほしいと思っています。
「ミモザ」は、イタリアでは「春の訪れを告げる花」と言われています。実は、このことを知る前に偶然にも我が家のシンボルツリーとして庭に2本植えていたんですよ。

●なぜ、この広場を作ったのですか？
夫がローマの日本人学校に赴任することになったので、それに同行したのがきっかけです。
あちらでは、見ず知らずの日本人の私でも昔からの友達のように家に招いてくれ、街のあちこちにある「パール」とよばれるお店でおしゃべりをして、すぐに私の居場所ができました。この雰囲気私を私の住む町でも作りたいと思い、夫と相談しているうちに我が家を改装することにしたんです。

●具体的にはどんな活動を？
ここで出会って仲良くなった皆さんの中には、プロのヴァイオリニストや陶芸家、ボランティア活動をされている方など様々な方がおられます。そのつながりで、「ミモザの広場」の一室がコンサート会場になったり、ギャラリーやカフェにもなります。何をするかは、ここに集った人たち次第で、私は場を提供しているだけなんです。限られたスペースですが、毎回何が生まれるか心が躍ります。

●今後もその「場」を？
「ミモザの広場」は今年で11年目になり、その間にはいくつもの大切な出会いがありました。私は、その方々の生き方に多くを学ばせていただき、本当に感謝しています。これからも「ご縁」を大切に、皆さんとゆっくりとした時間を紡いでいきたいです。



▲イタリア風の空間「ミモザの広場」



信楽焼のひな人形作り

信楽町の陶房では陶製ひな人形作りが2月、桃の節句を前に大詰めを迎えました。
一つひとつが職人のてびねりで10月頃から制作され始め、3月になると信楽のまちに窯元や作家ごとによって違う新しいモデルのひな人形が並びます。
慣れた手つきで人形に表情を書き入れていく職人は「手づくりだからこそ生まれる人形ごとの微妙な表情を、ぜひ手にとって楽しんで」と話しています。



▲棚に並べられた様々なひな人形

手作りで命吹き込む焼き物ひな

多くの市民が熱心に聴く経済見通し

甲賀市商工会新春経済講演会

恒例の市商工会「新春経済講演会」が1月28日、あいこく市民ホールで開催されました。今年、テレビなどで活躍する青山繁晴あおやましげはる氏が国内外の情勢を踏まえて経済見通しについて講演を行いました。
景気低迷が長引くなかで、まずは地域の経済が元気にならなければと会場を訪れた会員ら約600人はメモを取るなど熱心に聴き入っていました。



▲多くの聴衆が訪れた会場の様子



元気なまちかど

発表会のファイナーレ飾る 園伝統の「のぞみ太鼓」

甲南のぞみ保育園きらきら発表会



▲迫力たっぷりの「のぞみ太鼓」演奏

甲南のぞみ保育園伝統の「のぞみ太鼓」が2月14、15日の両日、同園「きらきら発表会」で5歳児31名により披露されました。
「のぞみ太鼓」は、創立以来17年間毎年5歳児によって発表が続けられ、年長組の園児の誇らしげな法被姿と、元気いっぱいバチさばきが見られる恒例行事です。子どもたちは、年長になってはじめて太鼓に触れ、練習を始めますが、小さい時から先輩の姿を見ていることで興味を持つ子が多く、期待に胸をふくらませバチを手にします。園長は「楽しく取り組みながらも、最後までやりきること、友達と協力し合うことの大切さを感じてもらいたい」と話されます。
子どもたちはこの日、緊張の表情を浮かべていましたが、一人ひとりが精一杯力を出し切り、堂々とした演奏を披露し、大きな拍手を浴びていました。

大切な家族や友達に贈るライブ

ミュージック・ジャム at KOKA

市内出身の若手ミュージシャンを集めたライブ「ミュージック・ジャム at KOKA」が2月9日、碧水ホールで開催され、県内外の音楽界で活躍する地元出身の5組が出演しました。
この日は、市内外から約300人のファンに加えて、出演者らの家族や友達も駆けつけました。
5組は、いずれもプロとして活動していますが、地元コンサートでの共演は初めてのことです。これまで応援してくれた観客に感謝の言葉をかけながら、エネルギーあふれるオリジナル曲を次々と披露しステージを盛り上げていました。



▲地元出身者により盛り上がったライブ会場

映画を通して故郷の発信を

油日神社映画ロケ



▲重要文化財の楼門前で撮影

台湾のホウ・シャオシェン映画監督が指揮をとる日台共同制作映画のロケ撮影が2月6日、油日神社で行われ、撮影スタッフや、様子を見守る地元の皆さんで境内が賑わいました。ホウ監督は1989年、『非情城市』でヴェネツィア国際映画祭グランプリを受賞され、北野武監督や故黒沢明監督とも親交の深い世界的に著名な映画監督です。

この日撮影されたシーンは、当初予定になく、中国や台湾に現存しない昔の姿のままの回廊(国指定重要文化財:1566年建立)が油日神社にあることを知ったホウ監督が、新たなシーンを練り上げ、今回のロケが行われました。

このロケを見守った地元住民の1人は「映画の舞台になることで、多くの歴史や自然の残る我が故郷を知ってもらえれば」と地域の魅力を発信することに期待を寄せていました。